

鹿児島市福山町。1983年開校。95年より音楽科、美術科が新設される。普通科にも英語、体育、書道などの多様なコースがある。

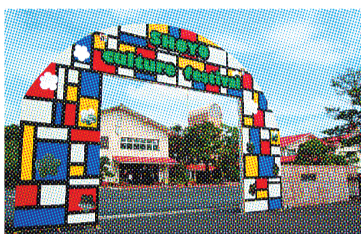


松陽高校バージョンで上演したオペラ「カルメン」。西郷どんも登場した

魅力的なオペラや音楽

生徒の演出光った文化祭

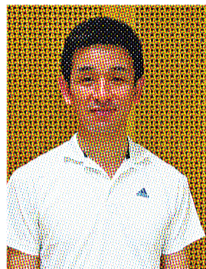
6月9日と10日の2日間わたり、第34回文化祭が開催された。今回の文化祭のテーマは「笑逆 In bloom」。咲きほこれ、松陽の花。だった。正門には毎年美術科によって制作されるアーチがそびえ立つ。今年のアーチもテーマにふさわしい壮大なものだった。



3年美術科が制作した、ピエト・モンドリアン風の文化祭アーチ

「カルメン」だ。その内容は私たちがオペラの世界に引き込むものだった。音楽部部長であり主人公カルメンを演じた3年生の古市真子さんによると、今回のオペラの見どころはそれぞれの役柄はもうらんであるが、やはり歌だ

そうである。オペラはミュージカルとは違いセリフより歌の量が圧倒的に多い。歌でストーリーを伝えることが難しかったそうだ。またステージからは生徒の表情がよく見え、その反応を楽しめたと話してくれた。



推しメン!!

吹奏楽部を熱血指導

立石 純也さん(47)

音楽科教諭・吹奏楽部顧問

今年4月に赴任した音楽科の立石純也先生は、本校の卒業生であり、松陽高校に勤務するのも今回が2回目だ。高校時代は普通科の音楽コース(現在の音楽科)で専門的に音楽を学びながら、吹奏楽部にも所属していた。吹奏楽コンクールで全国大会へ進むことができず、仲間とともに悔し涙を流したことをきっかけに、今度は指導者として吹奏楽部を全国大会へ導きたいと、音楽教諭を志したそうだ。

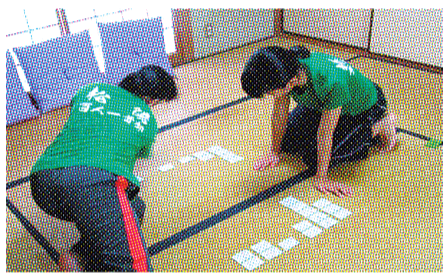
現在は音楽科2年担任、吹奏楽部顧問として日々熱心に指導にあたっている。部活動への意気込みを、「生徒とともに全国の舞台上立ち、応援してくださる方々へ喜

びと感動を届けたい」と語った。何事にも熱心で、人一倍松陽高校を愛している立石先生。「松陽高校は素直な生徒が多い。しかし自分の中にすでに限界を設定していて、そのリミッターを外しきれない面もあるのではないかな。目標に向かって本気でやれる環境が学校には整っている。それぞれの目標に向かって一緒にがんばろう!」と生徒たちにエールを送る。

吹奏楽部は8月20日、県の代表校として九州吹奏楽コンクールに出場し、金賞を受賞したが、惜しくも全国大会出場には届かなかった。来年こそは全国大会に行きたい。

(2年 野田晴佳)

県代表2人にインタビュー 百人一首の魅力知って



百人一首の練習風景

7月31日から8月4日まで宮城県で行われた全国高等学校総合文化祭に、百人一首の鹿児島県代表として出場した2年生の前原明香さんと増水巴美さんにインタビューをした。

百人一首との出会いは小学校の頃に通ったかるた講座だった。だが中学校には百人一首部がなく、2人とも百人一首をやりたくて松陽高校を志望した。

練習は試合形式でしており、平日は時間がなく1試合分しか行えない。土日はかるた協会が主催する練習に、一般の人に交じっておのおの参加している。

試合では集中力を保つことが重要

で、決勝まで残ると、朝から正座をしつづけているため膝はガクガクになり、歩くのもやっとの状態。最後は気力勝負となるそうだ。

全国高校総合文化祭では、2勝1敗で惜しくも予選リーグ敗退という結果で終わった。今後の目標は、「個人では県のベスト8入賞、団体では九州大会出場が目標」と前原さん。「全国大会に出場できた自信を大事にし、いろいろな大会で優勝を目指したい。そして百人一首の知名度を上げていきたい」と増水さん。そんな2人の共通の目標は、現在4人の百人一首部の部員を増やすことだという。

(2年 栢山紫馨)

私たちが取材しました



松陽高校の魅力を見つけた(野田)別の視点から書くのが難しかった(橋本)記事から松陽高校の魅力が伝わればうれしい(栢山)今後ますます企画に携わりたい(政)

チェック

初の校内スタンプラリー

体験入学で生徒会が企画

「松陽の素晴らしさを、中学生の皆さんに楽しく知ってもらいたい。そんな思いから、今年の松陽高校普通科体験入学で、生徒会は「校内スタンプラリー」を自分たちで企画し、実施した。

内容は、中学生が校内をまわり、7つのスタンプを集めてゴールを目指すというものだ。スタンプを集める時に、それぞれのポイントで松陽高校にまつわるクイズに答えてもらう。クイズに答えてゴールまでたどり着くと、美術

科の生徒がデザインしたクリアファイルがプレゼントされる。スタンプラリーのスタンプを集める台紙も美術科の生徒がデザインした。

体験入学当日は58人の中学生がスタンプラリーに参加してくれた。伊敷中学校の丸田幸生さんに感想を聞くと、「校舎がとても広くきれいで、中でも芸術棟がメルヘンチックだった。クイズは難しく、道に迷ったこともあったが、先生や先輩方がやさしく接してくださり、とても楽しむことができた」と話してくれた。今年初めての企画で不安もあったが、中学生に楽しんでもらえたと思う。来年はもっと工夫をこらして、たくさんの中学生在松陽高校の魅力伝えたい。(2年 政陽介)



芸術棟1階サモトラケのニケ像の前で、スタンプを集める中学生たち